

2006年11月15日

会社名 株式会社 高島屋  
 代表者名 取締役社長 鈴木 弘治  
 コード番号 8233

## 2006年10月度 高島屋営業報告

### 【総計】(前年対比、単位：%)

株高島屋計	分社4店含む実質
+0.8	+0.1

10月度は百貨店事業、広域事業ともに前年売上実績を上回り、分社4店含む実質では+0.1%となった。前年実績のクリアは昨年9月度以降、14ヵ月連続となった。

※分社4店とは、関西地区の岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋、関東地区の高崎高島屋です。

### 【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

分社4店除く	18店計
+0.8	+0.0

前年に比べて土曜日が1日減少したが、お歳暮の早期承りや秋冬物商材等の積極的な営業展開を図り、18店中10店が前年売上実績をクリア。温暖な天候の影響等で婦人服や子供服等が伸び悩んだが、18店計の売上は+0.0%で前年実績を上回った。

### 【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

関西地区	大阪店	京都店	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋
売上高	+0.7	+1.1	+10.3	△6.0	△7.8	+2.8
入店客数	△0.4	+2.3	+2.3	△4.9	△21.7	△8.3

関西地区合計	
分社3店除く	9店計
+1.6	+0.4

※大阪店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

※大阪店・京都店の入店客数はそれぞれ単店になります。

関東地区	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋
売上高	+1.1	△1.8	+2.5	+5.3	△3.0	△3.2	+0.3	△13.8
入店客数	△6.5	△3.3	△4.8	△1.6	△7.2	△0.5	△5.0	△13.1

関東地区合計	
分社1店除く	9店計
+0.3	△0.2

※横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

※横浜店の入店客数は単店になります。

関西地区では、9店中の5店が前年売上実績を上回り、地区計の前年対比は+0.4%となった。

大阪店はお歳暮の早期展開等が奏効した食料品や呉服、リビング等が前年売上を上回り、2ヵ月連続で前年実績をクリアした。京都店はリニューアルで強化したレストラン街や食料品等が売上を伸ばし、3ヵ月連続で前年実績をクリア。泉北店はリニューアル効果が続く婦人雑貨や食料品が前年から売上を2桁伸ばした。その他、岐阜店は好調を持続するものの、昨年全館リニューアルオープンの反動から入店客数、売上ともに前年実績を下回った。

関東地区では、9店中の5店が前年売上実績を上回ったが、地区計の前年対比は△0.2%で、わずかに前年に至らなかった。

東京店は婦人服や宝飾品等が伸び悩んだが、食料品や紳士服等が好調で、6ヵ月連続の前年実績クリア。横浜店は食料品や紳士服等が売上を伸ばし、特選衣料雑貨や婦人服等は伸び悩んだ。新宿店は紳士・婦人雑貨や食料品が好調で子供服等の低迷をカバーして前年プラスとなった。その他、高崎店は食料品フロアのリニューアル工事の影響等から前年実績を下回った。

### 【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

	法人事業	通販事業	広域事業計
売上高	+9.2	△8.4	+1.3

法人事業は企業向けの販促品等で新規物件や大型物件の計上が進み前年売上実績を上回った。通販事業は秋冬向けのカタログが低迷し、宝飾品等に動きが見られたが衣料品や食料品等が低調で前年実績を下回った。

### 【商品別概況(百貨店協会商品区分)】(前年対比、単位：%)

	株高島屋計	分社含む実質
紳士服・洋品	△1.7	△2.2
婦人服・洋品	△2.4	△3.0
子供服・洋品	△2.1	△2.6
その他衣料品	△6.9	△7.2
衣料品計	△2.6	△3.1

	株高島屋計	分社含む実質
身のまわり品	△1.7	△2.0
家具	△4.3	△3.4
家電	+0.7	+1.3
その他家庭用品	+5.7	+5.3
家庭用品計	+2.8	+2.8

	株高島屋計	分社含む実質
食料品	+8.9	+6.9
食堂・喫茶	+12.8	+9.9
雑貨	△0.1	△0.1
サービス	+4.6	+3.9
その他	△5.7	△6.1
合計	+0.8	+0.1

#### 〈当社分類による百貨店事業の商品別概況〉

紳士服(前年対比+1.4%)は、レザーやダウン素材のアウター、コートの立上がりりが順調であったが、インナーアイテムのベストやセーターの動きは鈍かった。婦人服(同△3.0%)ではトレンドアイテムのワンピース、ロング丈のコートやニットといったアウターに動きが見られたが、ジャケットは低迷した。婦人雑貨(同+3.0%)では帽子や手袋、マフラー・ストール等の秋冬物アイテムやロングブーツが好調な婦人靴、化粧品、婦人アクセサリー等の主要アイテムも順調であった。そのほか、食堂(同+10.1%)、食料品(同+7.7%)、呉服(同+0.1%)が前年実績を上回り、美術(同△5.7%)、宝飾品(同△3.8%)、子供服等(同△3.8%)、特選衣料雑貨(同△2.3%)等は前年実績に至らなかった。

お問い合わせは、広報・IR室(東京)tel:03-3246-4351 (大阪)tel:06-6631-5499までお願いいたします。

以上